

3
士師
聖徒伝 69

「目覚めよ 起きよ 神の子らよ」

士師記4～5章 士師デボラ 主の戦いと神への賛歌

【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

I. 士師デボラ 4章

II. デボラの歌 5章

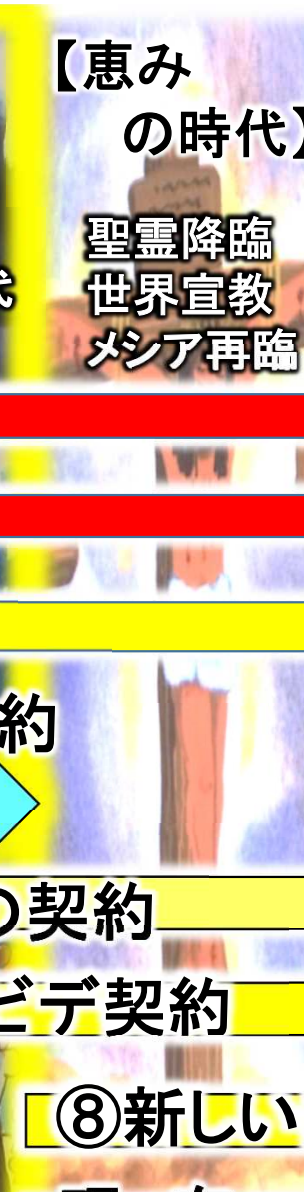
III. まとめと適用

何者でもない私を

主が立て用いてくださるから



タボル山とアーモンドの果樹園



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

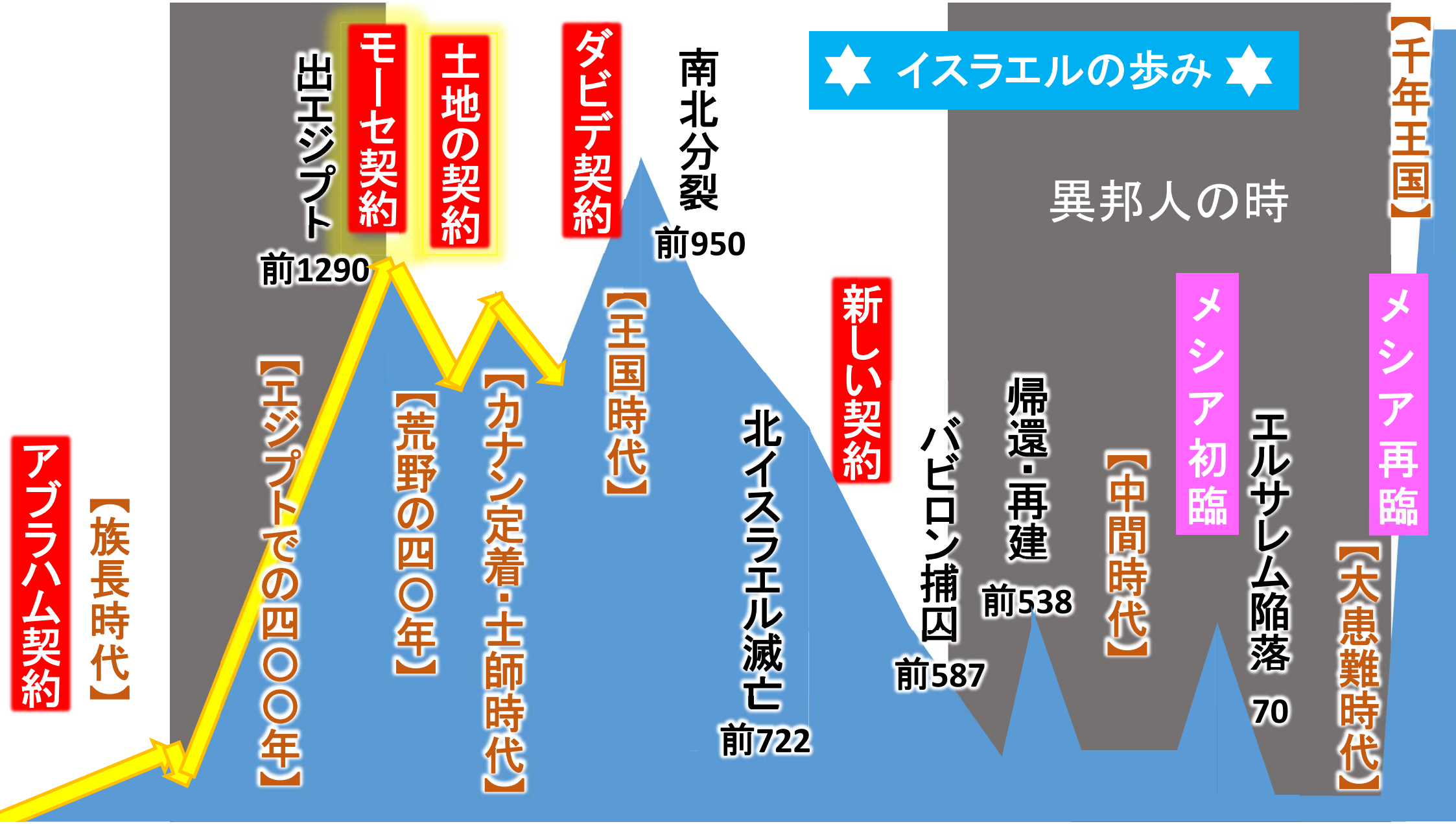
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

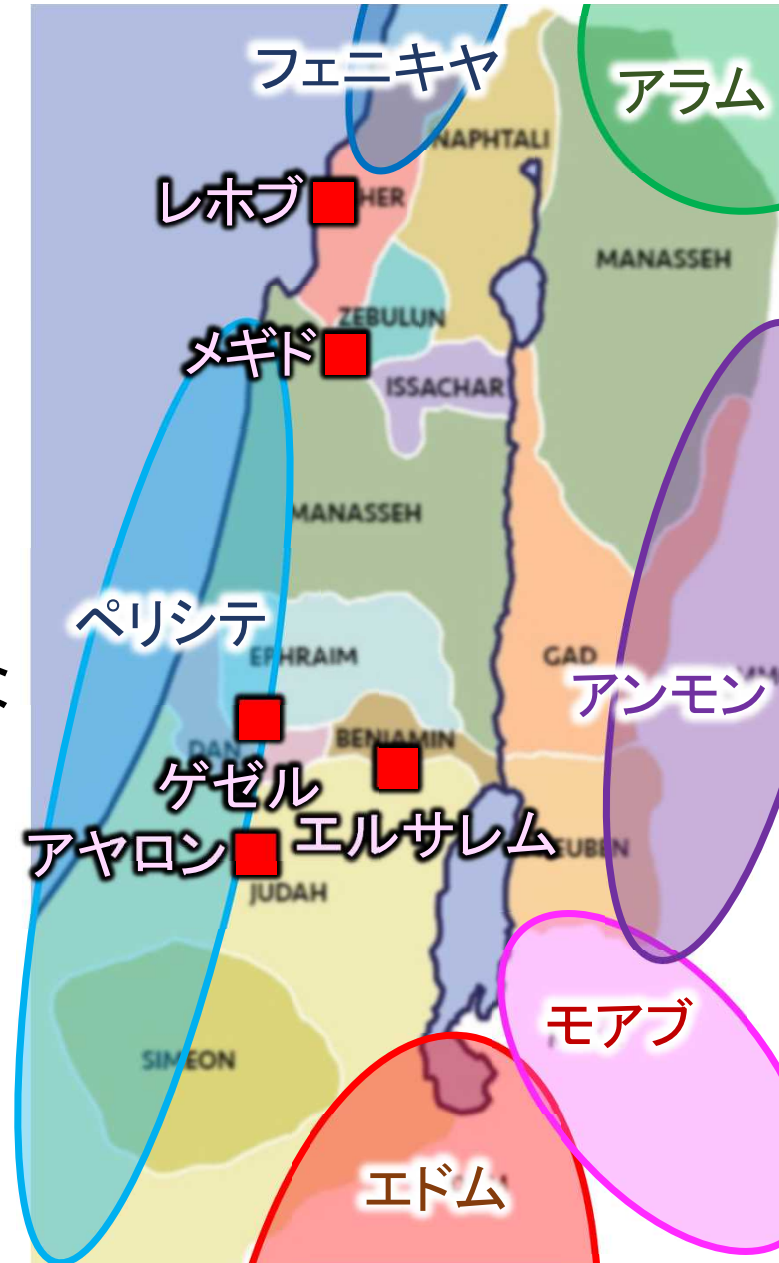
未来

★ イスラエルの歩み ★



【残された土地】

- ヨシュアに率いられたイスラエルは、12部族それぞれの相続地を手に入れた。
- しかし、未征服の地がまだ多く残っていた。
- カナン人の町が要所にあり、周囲にも、強力な民族がいて、イスラエルを脅かしていた。



【士師とは？】

- 神が立てたイスラエルの一部族のリーダー。
裁判官。政治的、軍事的指導者。
民の解放者、救済者。

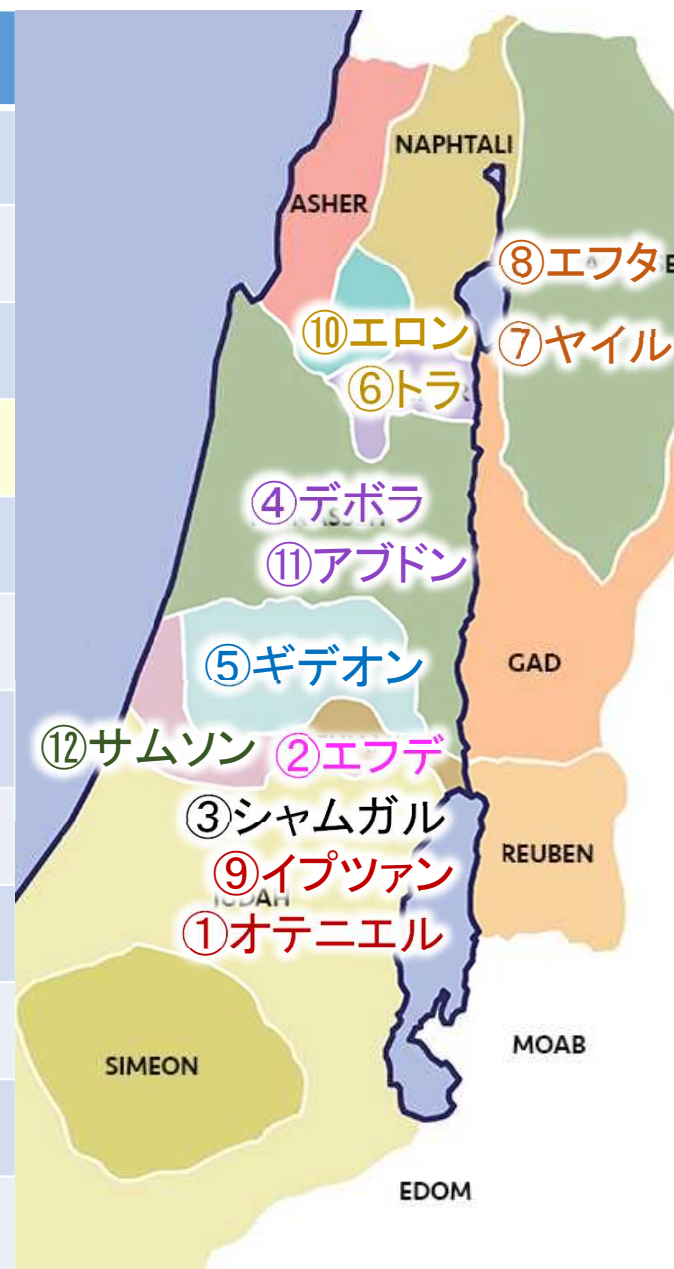
【士師記で繰り返されるイスラエルの罪】

- ❶ 背信 ...カナンの偶像礼拝に取り込まれる
バアル(主神)。アシュタロテ(女神)。
- ❷ 裁き ...主が異邦の民を用いてイスラエルを裁く。
- ❸ 悔い改め ...イスラエルは主に助けを求める。
- ❹ 士師による解放 ...主は、士師を送り敵を退ける。

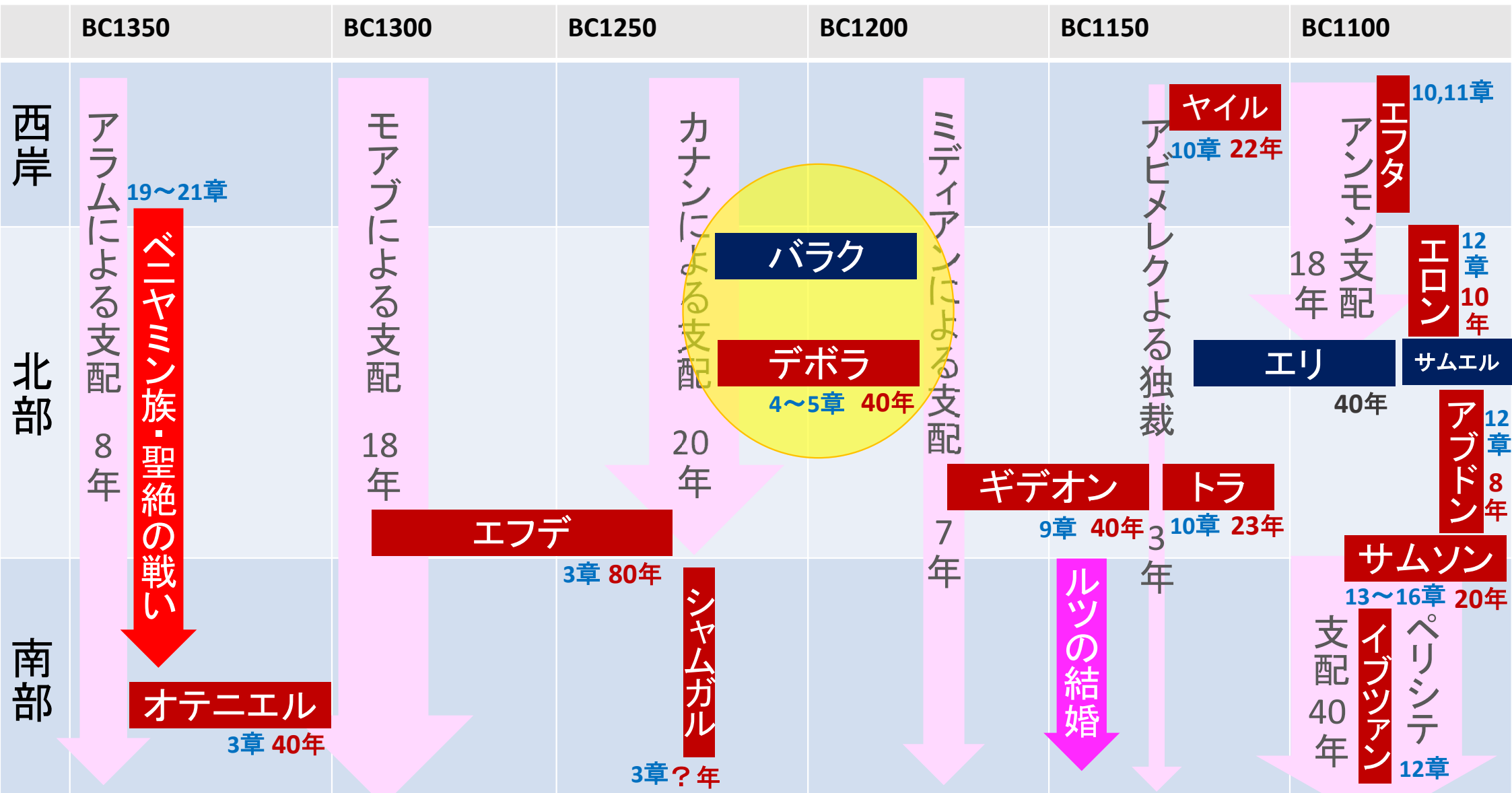


十二人の士師たち

士師	聖書	出身部族	敵
①オテニエル	3:7～11	ユダ	アラム人
②エフデ	3:12～30	ベニヤミン	モアブ人
③シャムガル	3:31	?	ペリシテ人
④デボラ	4:1～5:31	エフライム	カナン人
⑤ギデオン	9:1～56	マナセ	ミディアン人
⑥トラ	10:1～2	イッサカル	?
⑦ヤイル	10:3～5	マナセ(ギルアデ)	?
⑧エフタ	10:6～11:40	マナセ(ギルアデ)	アンモン人
⑨イプツァン	12:8～10	ユダ ベツレヘム	?
⑩エロン	12:11～12	ゼブルン	?
⑪アブドン	12:13～15	エフライム	?
⑫サムソン	13:1～16:31	ダン	ペリシテ人



【士師の時代】



I. 士師デボラ 士師記4章



タボル山

【ハツオルによる支配】 士師4:1～

イスラエルの子らは、【主】の目に悪であることを重ねて行った。エフデは死んでいた。

【主】は、ハツオルを治めていたカナンの王ヤビンの手に彼らを売り渡された。ヤビンの軍の長はシセラで、ハロシェテ・ハ・ゴイムに住んでいた。

すると、イスラエルの子らは【主】に叫び求めた。ヤビンには鉄の戦車が九百台あり、そのうえ二十年の間、イスラエルの子らをひどく圧迫したからである。

- ヨシュア記1章で攻め落としたハツオルの復興。
北方のメソポタミアからの支援もあった？



【女預言者デボラ】 士師4:4～5

ラピドテの妻で女預言者のデボラが、そのころイスラエルをさばいていた。彼女は、エフライムの山地のラマとベテルの間にあるデボラのなつめ椰子の木の下に座し、イスラエルの子らは、さばきを求めて彼女のところに上って来た。

- デボラは、神の預言によって人々を裁いていた。預言者本来の役目は、神の言葉を告げること。
→ 民を司ることのできる者が他にいなかった。
- 女預言者に頼るしかないというところに、リーダー不在のイスラエルの危機的状況が!!



【バラクへの主の命令】 士師4:6～7

あるとき、デボラは人を遣わして、ナフタリのケデシュから**アビノアムの子バラク**を呼び寄せ、彼に言った。「イスラエルの神、【主】はこう命じられたではありませんか。『行って、**タボル山**に陣を敷け。ナフタリ族とゼブルン族の中から一万人を取れ。わたしはヤビンの軍の長シセラとその戦車と大軍を、キシヨン川のあなたのところに引き寄せ、彼をあなたの手に渡す』と。」

- ナフタリ族の指導者バラクに、ハツオル軍と戦うよう主が命じられた。



【バラクと共に行くデボラ】 士師4:8～10

バラクは彼女に言った。「もしあなたが私と一緒に行ってくださるなら、行きましょう。しかし、もしあなたが私と一緒に行ってくださらないなら、行きません。」

そこでデボラは言った。「私は必ずあなたと一緒にいきます。ただし、あなたが行こうとしている道では、あなたに誉れは与えられません。【主】は女の手にしセラを売り渡されるからです。」こうして、デボラは立ってバラクと一緒にケデシュへ行った。

バラクはゼブルンとナフタリをケデシュに呼び集め、一万人を引き連れて上った。デボラも彼と一緒に上った。

■ 主の臨在の保証としてデボラに同伴を求めたバラク。



【集結する戦士たち】 士師4:11～13

ケニ人ヘベル*は、モーセのしゅうとホバブの子孫のケニ人たちから離れて、ケデシュに近いツァアナニムの櫛の木のそばで天幕を張っていた。

一方シセラに、アビノアムの子バラクがタボル山に登ったと知らされた。

シセラは自分の戦車すべて、すなわち鉄の戦車九百台と、彼と一緒にいた兵をみな、ハロシェテ・ハ・ゴイムからキシヨン川に呼び集めた。

* 南部に住んでいたが、なぜかこんなところに。

* メギドのあたりにあった要塞か？

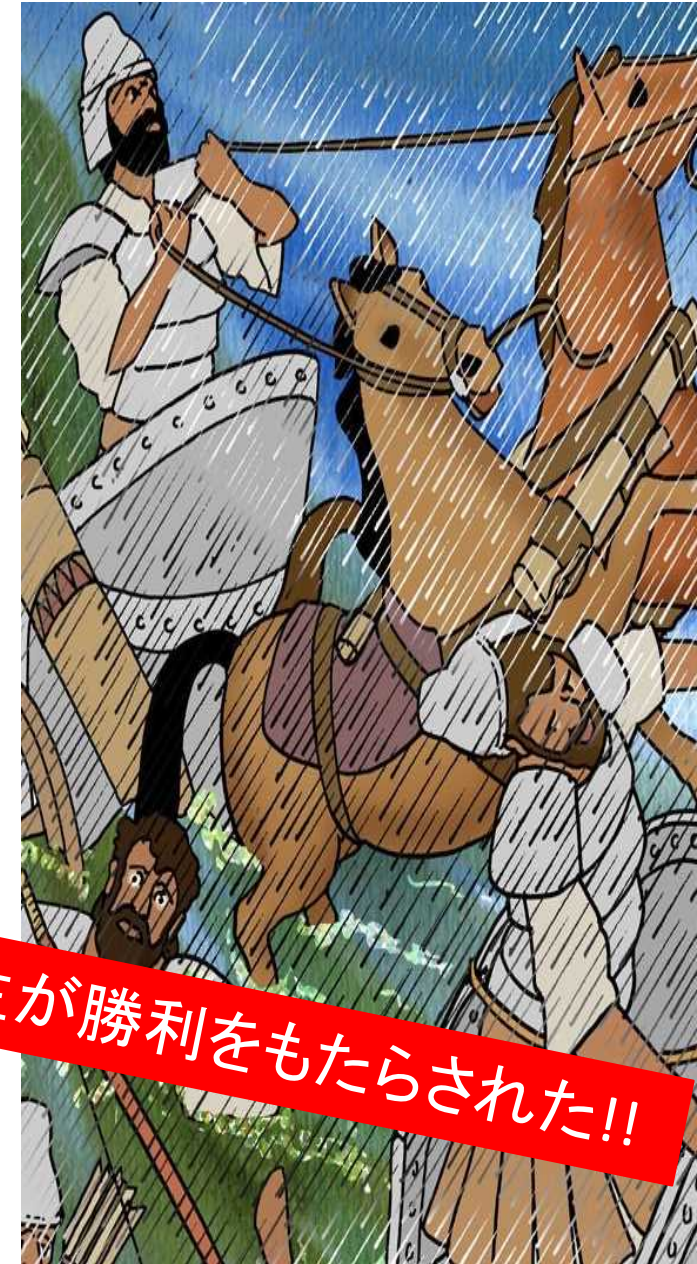


【バラクの勝利・シセラの敗北】 士師4:14～16

デボラはバラクに言った。「立ち上がりなさい。今日、【主】があなたの手でシセラを渡される。【主】があなたに先立って出て行かれるではありませんか。」そこで、バラクはタボル山から下り、一万人が彼の後に従った。【主】は、シセラとそのすべての戦車とすべての陣営の者を、剣の刃をもってバラクの前で混乱させられた。シセラは戦車から飛び降り、自らの足で逃げた。

それでバラクは、戦車と陣営をハロシェテ・ハ・ゴイムまで追いつめた。こうして、シセラの陣営の者はみな剣の刃に倒れ、残された者は一人もいなかった。

- 突然の雨で水なし川のキシヨン川に濁流が流れ、足下はぬかるみ、戦車は身動きがとれなくなった。



主が勝利をもたらされた!!



【ケニ人へベルの天幕】 士師4:17～18

しかし、シセラは自らの足でケニ人へベルの妻ヤエルの天幕に逃げた。ハツオルの王ヤビンとケニ人へベルの家は友好関係にあった*からである。

ヤエルはシセラを迎えに出て来て、彼に言った。「お立ち寄りください、ご主人様。私のところにお立ち寄りください。ご心配には及びません。」シセラが彼女の天幕に入ったので、ヤエルは彼を布でおおった。

*** モーセの舅の子孫ケニ人の中にも反逆者が!!**

■ 客人を命がけで守るのが、遊牧の民の仁義。

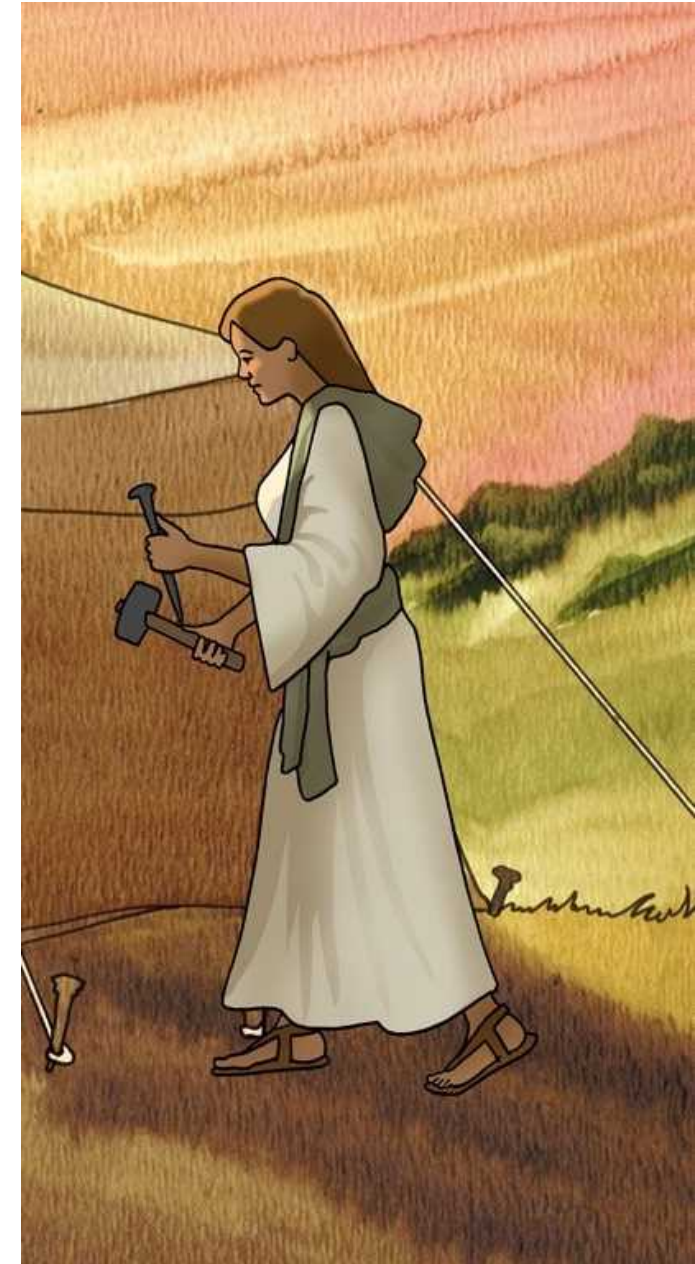


【シセラの最後】 士師4:19～21

シセラはヤエルに言った。「どうか、水を少し飲ませてくれ。喉が渴いているから。」ヤエルは乳の皮袋を開けて彼に飲ませ、また彼をおおった。

シセラはまた彼女に言った。「天幕の入り口に立っていてくれ。もしだれかが来て、ここにだれかいないかと尋ねたら、いないと言うように。」

だが、ヘベルの妻ヤエルは天幕の杭を取ると、槌を手にしてそっと彼に近づき、そのこめかみに杭を打ち込んで地に突き刺した。彼は疲れて熟睡していたのである。こうして彼は死んだ。



【戦いの結末】 士師4:22～24

ちょうどそのとき、バラクがシセラを追って来たので、ヤエルは彼を迎えに出て言った。「おいでください。あなたが捜している人をお見せしましょう。」

彼がヤエルのところに行くと、なんと、シセラが倒れて死んでおり、そのこめかみには杭が刺さっていた。

こうして神は、その日、イスラエル人の前でカナンの王ヤビンを屈服させた。イスラエル人の勢力は、カナンの王ヤビンに対してますます強くなり、ついにカナンの王ヤビンを滅ぼすに至った。

■勝利されたのは、主ご自身!!



Ⅱ. デボラの歌

士師記5章



タボル山

【デボラの歌】 士師記5:1～31

- ①一連** ...イスラエルを約束の地に導き入れた
(1～5節) 主が讃えられる。
- ②二連** ...背教の士師の時代、富者も権力者も沈黙
(6～11節) する中、民衆が主の戦いに結集した。
- ③三連** ...ナフタリ、ゼブルンに加え、エフライム、
(12～23節) ベニヤミン、イッサカルの勇姿が讃えられる。
神ご自身が戦われ、敵を打ち破られた。
- ④四連** ...シセラを討ったケニ人ヤエルが讃えられる。
(24～27節) 遊牧の民の女で最も祝福されたものだと。
- ⑤五連** ...シセラの凱旋を待つ家族の悲劇が歌われる。
(28～31節) 信仰者が主に高く上げることが願われる。

ハツオルの要塞跡

イスラエルの神

立ち上がる民衆

デボラと勇者たち

ケニ人の女ヤエル

勝利者への祝福



【デボラで歌われる、戦いのポイント】

■ 戦いのクライマックスが、19～23節

■ 「天から、もろもろの星が下ってきて戦った(20節)」

➡ 星は、天使を象徴するもの。天の軍勢。

■ 「キシヨン川は彼らを押し流した(21節)」

➡ 豪雨と濁流が、戦車隊を無力化させた。

全能の神は、天候をも用いて戦われた。

■ 「主の使い」が、不参加の氏族を呪っている(23節)

➡ 主の使い、とは、受肉前の子なる神。メシア。

主ご自身が戦われ、勝利を勝ち取られた!!



【デボラの歌の特徴】

- ただ勝利を喜ぶだけの凱旋歌ではない。
英雄賛歌ではない。主へのイスラエルの賛歌。
ミリアムが躍った歌(出15章)にも通じるもの。
- 主に信頼した低き者が高く上げられる逆転の歌。
ハンナの歌(サム2章)、マリアの賛歌(ルカ1章)
➡これらの賛歌にもつながっていく。
- 主は、何もない小さき者に目をとめ、用いられる。
➡究極的には、人となられた子なる神メシアが、
誰よりもへりくだり、イスラエルと人類の罪の
贖いを、十字架の死によって成し遂げられる。



ナザレから臨むタボル山

【イスラエルの主を讃えよ】 士師5:1～5

その日、デボラとアビノアムの子バラクは、こう歌った。
「イスラエルでかしらたちが先頭に立ち、民が進んで身を
献げるとき、【主】をほめたたえよ。

聞け、王たち。耳を傾けよ、君主たち。私、この私は【主】
に向かって歌う。イスラエルの神、【主】にほめ歌を歌う。
【主】よ。あなたがセイルから出て、エドムの野から進ん
で行かれたとき、大地は揺れ、天も滴り、密雲も水を滴ら
せました。

山々は【主】の前に流れ去りました。シナイさえもイスラエ
ルの神である【主】の前に。



【立ち上がる民衆・残された信仰者たち】 士師5:6～11

アナトの子シャムガルの時代、またヤエルの時代に、
隊商は絶え、旅人は脇道を通った。

農夫は絶えた。イスラエルに絶えた。私デボラが立ち、
イスラエルに母として立ったときまで。

新しい神々(偶像)が選ばれたとき、そのとき、戦いは門(町の
権力の中心)まで及んでいたが、イスラエルの四万人のうちに、
盾と槍が見られただろうか。

私の心はイスラエルの指導者たちに、民のうちの進んで身を
献げる者たちに向かう。【主】をほめたたえよ。

茶色の雌ろばに乗る者たち、敷き物の上に座す者たち、
道を歩く者たちよ、語り伝えよ。

水飲み場で水を分ける者たちの声を聞いて。そこで彼らは
【主】の義と、イスラエルにいる主の村人たちの義をたたえ
る。そのとき、【主】の民は城門に下って行った。



【デボラ、バラク、諸氏族の勇姿たち】 士師5:12～18

目覚めよ、目覚めよ、**デボラ**。目覚めよ、目覚めよ、歌声をあげよ。
起きよ、**バラク**。捕虜を引いて行け、アビノアムの子よ。

そのとき、生き残った者は貴人のように下りて来た。【主】の民は私のところに勇士のように下りて来た。

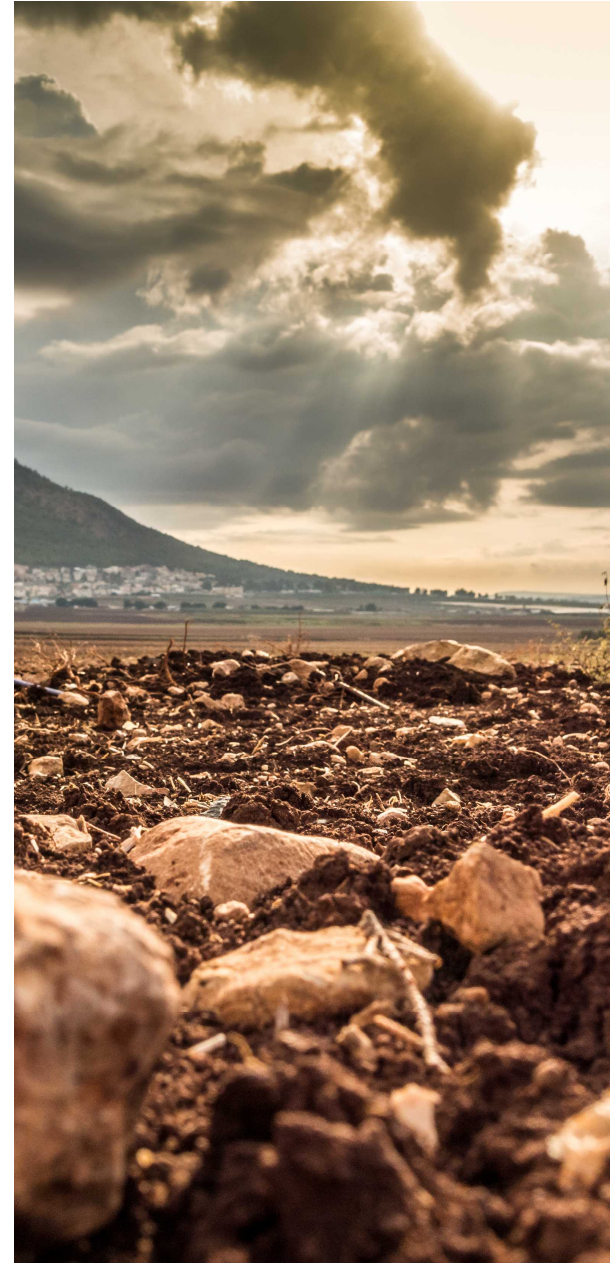
エフライムからはその根がアマレクにある者が下りて来た。**ベニヤミン**はあなたの後に続いてあなたの民のうちにいる。**マキル**からは指導者たちが**ゼブルン**からは指揮を執る者たちが下りて来た。

イッサカルの長たちはデボラとともにいた。イッサカルはバラクと同じく歩兵たちとともに平地に送られた。

ルベンの諸支族の決意は固かった。なぜ、あなたは二つの鞍袋の間に座って、羊の群れに笛吹くのを聞いていたのか。ルベンの諸支族の間には、深い反省があった。

ギルアデはヨルダンの川向こうにとどまった。ダンはなぜ船に残ったのか。アシェルは海辺に座り、その波止場のそばにとどまっていた。

ゼブルンは、いのちを賭して死をいとわぬ民。野の高い所にいる**ナフタリ**も。



【天の軍勢を率いて戦われた主】 士師5:19～23

王たちはやって来て戦った。そのとき、カナンの王たちは戦った。メギドの流れのそばのタアナクで。彼らが銀の分捕り品を取ることはなかった。

天から、もろもろの星が下って来て戦った。その軌道から離れて、シセラと戦った。

キシヨン川は彼らを押し流した。昔からの川、キシヨン川が。わがたましいよ、力強く進め。

そのとき、馬のひづめは地を踏み鳴らし、その荒馬は全力で疾走する。

【主】の使いは言った。『メロズをのろえ、その住民を激しくのろえ。彼らは【主】の手助けに来ず、勇士たちとともに、【主】の手助けに来なかったからだ。』

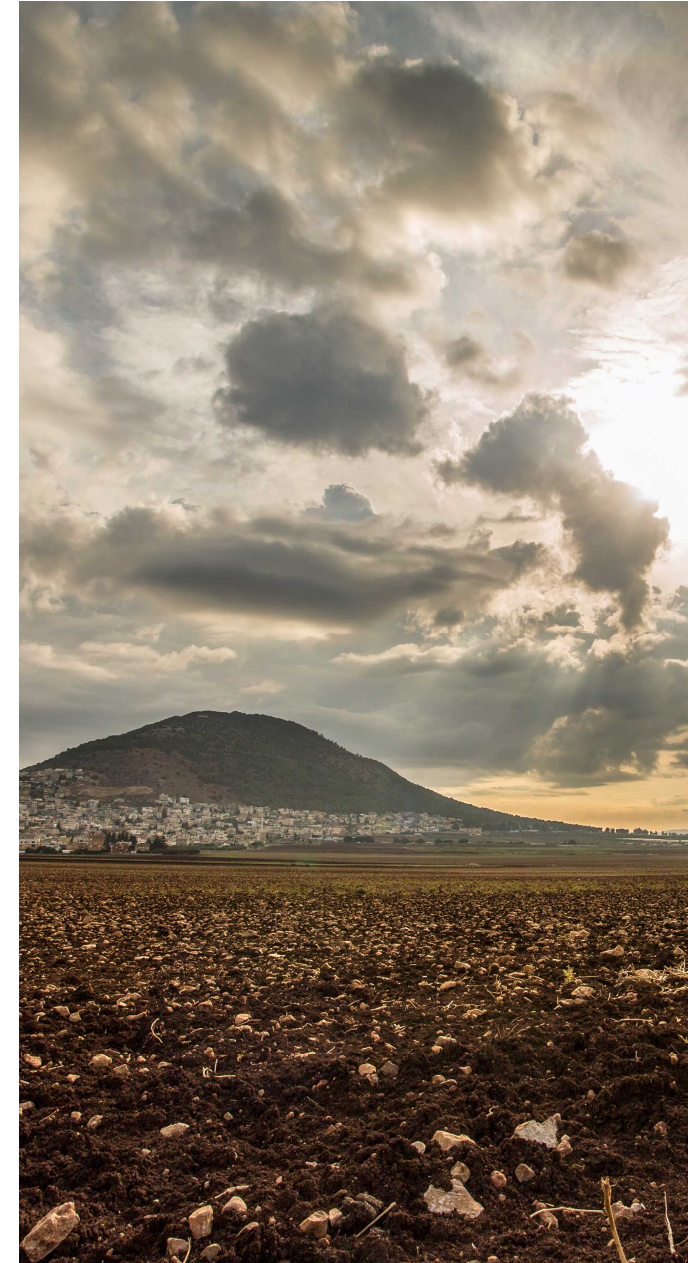


【祝福されるケ二人の女ヤエル】 士師5:24～27

女の中で最も祝福されるのはヤエル、ケ二人ヘベルの妻。天幕に住む女の中で最も祝福されている。シセラが水を求めると、彼女は乳を与え、高価な鉢で凝乳を差し出した。

ヤエルは杭を手にし、右手に職人の槌をかざしシセラを打って、その頭に打ち込み、こめかみを砕いて刺し貫いた。

彼女の足もとに彼は膝をつき、倒れ、横たわった。彼女の足もとに彼は膝をつき、倒れた。膝をついた場所で、倒れて滅びた。



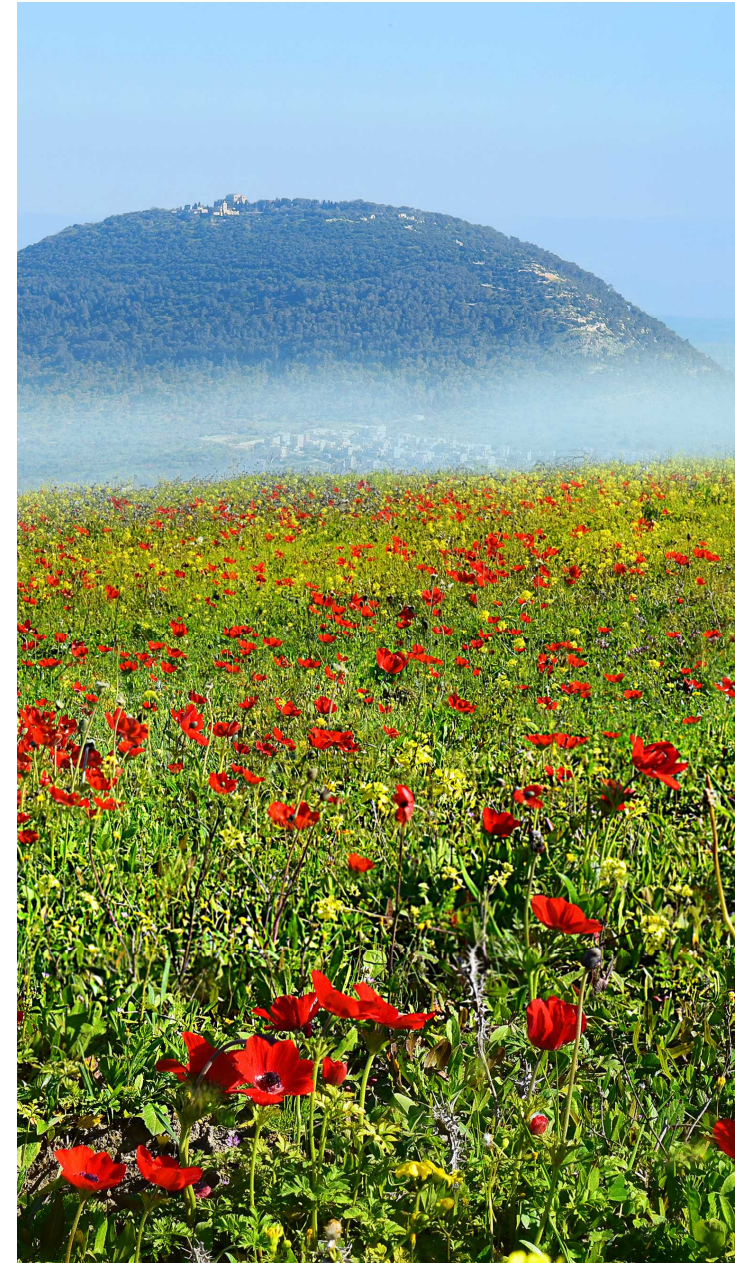
【シセラの母の悲劇、勝利者の祝福】 士師5:28～31

窓から見下ろして、シセラの母は格子窓から見下ろして嘆いた。『なぜ、あれの車が来るのは遅れているのか。なぜ、あれの戦車の動きは鈍いのか。』

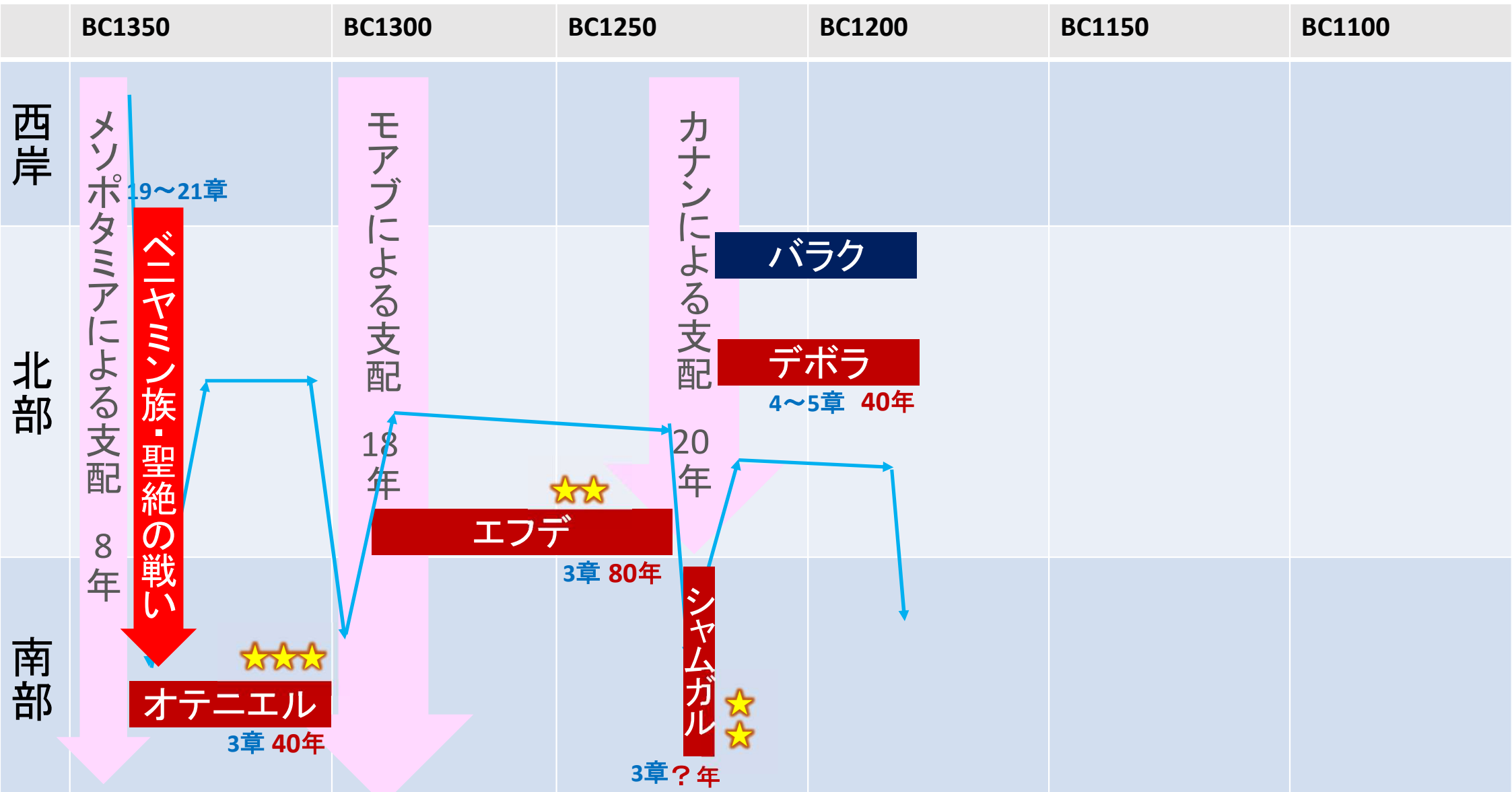
知恵のある女官たちは彼女に答え、彼女も同じことばを繰り返した。

『彼らは分捕り物を見つけ出し、それを分けているではありませんか。勇士それぞれには一人か二人の娘を、シセラには染め織物を分捕り物として。分捕り物として、刺した染め織物を、刺した染め織物二枚を首に、分捕り物として。』

このように、【主】よ、あなたの敵がみな滅び、主を愛する者が、力強く昇る太陽のようになりますように。」
こうして、国は四十年の間、穏やかであった。



【士師の時代】



Ⅲ. まとめと適用

何者でもない私を
主が立て、用いてくださるから

ナザレから臨むタボル山



【何者でもない士師たち】

- ① オテニエル ...イスラエルの正統派リーダーと呼べる唯一の人。しかし、彼の時代にベニヤミン聖絶の最悪の出来事が起こった。
 - ② エフデ ...聖絶されたベニヤミン族の生き残りの子孫。左利きの暗殺者。700人のギブアの左利きの精鋭と関係がある？
 - ③ シャムガル ...親から二代で偶像の名を持つ、出自不明の牛飼い。
 - ④ デボラ ...女預言者。他は、ミリアム、フルデ(Ⅱ列22:14)、ハンナだけ。
➡他の士師たちも、臆病者、無法者、乱暴者など、むしろ問題児揃い。
- そもそも、士師は、称号ではない。士師という地位があるわけではない。神が立てて用いられたという以外、士師たちには何もない。
➡“私には何もない。主ご自身がさばかれる。” それが、さばきの原則。

真の士師・さばきつかさは、唯一の神

【聖書における四人の女預言者】

- ① **ミリアム** ...モーセの姉。出エジプト後、タンバリンを手に主を賛美した。
40年の荒野放浪が決まるカデシュ・バルネア事件の直前、
神が立てたモーセを非難し、懲らしめを受けた。
- ② **デボラ** ...混乱の時代にイスラエルを裁いた。
- ③ **フルデ** ...南王国(ユダ)・ヨシヤ王の宗教改革時代の預言者。
ユダへの裁きから真の信仰者を守ると、主の言葉を告げた。
- ④ **アンナ** ...メシアの奉獻に居合わせ、人々にメシア到来を告げた。

■ 4人に共通するのは、イスラエルの靈的混沌と危機の時代だったこと。

➡ 割礼を受け、律法を継ぐ、アブラハムの子孫の男たちの中に、
真の指導者たる人物が乏しかったという現実があらわにされている。

【デボラから、隠された士師記のテーマを汲み取ろう】

- デボラの歌は、逆転の歌。ハンナの歌、マリアの賛歌にも通じるもの。
主は、低くされた者を、ただ信仰のゆえに、高く引き上げられる。
- 混沌の士師記の時代、弱者、少数者に焦点が与えられた。
低き者、小さき者に、危機の時代こそ、大きなチャンスがまわってくる。
- 低き者が、勝利を収め、主によって高く上げられる。
➡ その究極が、人として来られた神、主イエス・キリスト。
- イエス・キリストは、わたしの、あなたの罪のため、
十字架にかけられ、死んで葬られ、死を打ち破って復活された。

【私たちが讃えるべきは、低きから高きへ挙げられた主イエス・キリスト】

ピリピ書2:6～11

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。

人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

世(よ)にあつて わたしたちは、打(う)ち砕(くだ)かれ、小(ちい)さき者(もの)と
されます。そのことをよろこび、主(しゅ)を讃(たた)える者としてください。

何者(なにもの)でもないわたしを、主(しゅ)が用(もち)いてくださいます。

どうか、わたしが出会(であ)わされる 一人の魂(たましい)を、

永遠(えいえん)の救(すくい)いに 招(まね)き入(い)れてください。

ここから新(あら)たに遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストのみ名(な)によつて祈(いの)ります。 アーメン」